旧松本村地区にまつわるストーリー

維新の光・日本の近代国家を創った志士たち

松下村塾の塾生には、内閣総理大臣となった伊藤博文や山県有朋、司法大臣となった山田顕義、内務大臣になった野村靖や品川弥二郎など、明治以降に活躍した人物が目立っています。彼らの史跡は旧松本村を中心に各所に点在しています。

おすすめトレイル

③至誠館・松陰神社 → ④松下村塾 → ちょっと足を伸ばして → ①品川弥二郎誕生地

③至誠館・松陰神社 → ⑩伊藤博文旧宅・別邸 → ちょっと足を伸ばして → ㉖山田顕義誕生地 → ㉗楫取素彦旧宅地

維新の影・志半ばで散った志士たち

久坂玄瑞や高杉晋作、吉田稔麿を始め、松陰先生の志を受け継ぎ、「草莽崛起」の精神を実行しながらも、明治という新しい時代をその目で見ずに散った多くの志士たちがいました。旧松本村には、彼らの魂をまつった墓が集まっています。

おすすめトレイル

③至誠館・松陰神社 ▶ ④松下村塾 ▶ ⑦松浦松洞誕生地 ▶ ⑧吉田稔麿誕生地 ▶ ⑯玉木文之進旧宅 ▶ ⑰吉田松陰誕生地 ▶ ⑱吉田松陰銅像 ▶ ⑲吉田松陰墓所 ▶ ㉔殉難烈士の墓（東光寺）

高杉晋作も気に入っていた!?「旧松本村」

文久3年（1863）3月、高杉晋作は剃髪して「東行」と名乗り、十年の暇をもらって萩に戻り、松陰先生の墓地の下で勉強をしようと、この旧松本村近辺に潜居しました。吉田松陰誕生地の近くには、「高杉晋作草庵跡地顕彰碑」と書かれた大きな石碑がありますが、実際に高杉晋作が潜居していた正確な場所は現在も明らかになっていません。高杉晋作はこの時のことを「草庵は近く漢山の峰有り、渓水は屋をめぐり、窓江に挑む。この如き好景は見るよしなし」などと詩にしたため、閑静な谷里の風景を気に入っていたようです。

藩政時代の雄大で荘厳な建物・東光寺と当時の松本村

藩政時代、萩城下東郊にある松本村には、交通の要としてにぎわう松本市と、武士の住まいや農地、重臣の別荘地などが広がっていました。

元禄４年(1691)、３代藩主毛利吉就は、城下を見下ろす場所に東光寺を創建し、大雄宝殿や総門といった雄大で荘厳な建物が造られました。吉就の没後、東光寺は毛利家の菩提寺になり、以後、奇数代の藩主の墓が置かれました。

また、新道や扇の芝、松本橋も東光寺と同時期に造られました。松本橋付近には、かつて、阿武川上流域の人々が朝風とともに、薪や農産品を積んだ帆船で下って来て、積み荷を下ろし、橋のたもとの船宿や居酒屋で休憩した後、買い求めた日用品を積み込み、夕日とともに帰っていきました。

八江萩名所図画のうち東光寺の図　明治25年(1892)　木梨恒充著・山県篤蔵校訂　萩博物館蔵

おすすめトレイル

東光寺：⑳総門 ▶ ㉓大雄宝殿 ▶ ㉔殉難烈士の墓 ▶ ㉕萩藩主毛利家墓所

㉕萩藩主毛利家墓所 → ⑮石州街道 ▶ ㉘人丸神社 ▶ ㉙坂高麗左衛門窯 ▶ ㉚手水川刑場跡

㉕萩藩主毛利家墓所 → ⑰吉田松陰誕生地 ▶ ⑯玉木文之進旧宅 ▶ ⑩伊藤博文旧宅・別邸 ▶ ⑪金鋳原鋳造所跡 ▶ ⑫幽霊坂 ▶ ⑨新道の生垣 ▶ ❷郡司鋳造所遺構広場 ▶ ●扇の芝

萩藩を代表する鋳物師の工房「郡司鋳造所」

金属を溶かし、様々な型に流し込んで武器や梵鐘、鏡、鍋などをつくる職人を鋳物師といいます。江戸時代、郡司鋳造所は萩藩を代表する鋳物師・郡司家の工房でした。鍋・挙先など生活用具、あるいは寺院の梵鐘から、長大な洋式大砲にいたるまで、多様な銅・鉄製品がこの場所で造られ、科学技術で近世～幕末の萩のモノづくりに大きく貢献していました。

八江萩名所図画のうち松本河原鋳物司の図
明治25年(1892)　木梨恒充著・山県篤蔵校訂　萩博物館蔵

石州街道の要の地「松本市」

月見川の北側は、城下の唐樋の札場から延びる石州街道の分岐点で、周辺から入ってきた人や荷物が集まる場所としてにぎわい、松本市と呼ばれていました。馬車が通っていた時代には、馬の蹄をつけるための蹄鉄屋が２～３軒あったり、馬を売買する馬喰、呉服屋や宿屋、魚屋、茶碗屋などがあったそうです。石州街道は現在の松陰神社境内の一部を通った後の三つ辻と呼ばれるところで仏坂道と土床道・白坂道に分岐していました（マップ面赤点線部分）。

御国廻御行程記のうち椿東の図　山口県文書館蔵

参考文献：『幕末長州藩の科学技術』、『吉田松陰と塾生たち』、『幕末明治の人物と風景ー萩博物館所蔵古写真集成（1）』　画像提供：松陰神社、萩博物館、春風文庫 ほか

旧松本村地区見学施設案内

維新のふるさとを学ぼう！

松陰神社宝物殿 至誠館
時間：9:00～17:00　年中無休
料金：大人500円、中・高生250円、小学生100円
電話：0838-24-1027
住所：山口県萩市椿東1537（松陰神社境内）

伊藤博文別邸
文化財施設ガイド常駐
時間：9:00～17:00　年中無休
料金：100円（小学生未満無料）
電話：0838-25-3139（萩市観光課）
住所：山口県萩市椿東1511-1
※文化財施設1日券（310円）対象施設

玉木文之進旧宅
文化財施設ガイド常駐
時間：9:00～17:00　年中無休　無料
電話：0838-25-3139（萩市観光課）
住所：山口県萩市椿東1584-1

東光寺
萩藩を治めた毛利家奇数代藩主の菩提寺。総門・三門・鐘楼・大雄宝殿が国の重要文化財に指定されている。
時間：8:30～17:00　年中無休
料金：一般300円、小・中学生150円
電話：0838-26-1052
住所：山口県萩市椿東1647

旧松本村を歩くときに味わいたい…

松陰だんご

夏みかん菓子

夏みかんジュース

旧松本村季節暦

春
- 桜（東光寺、松陰神社、月見川、松陰誕生地）
- 春季大祭（松陰神社5／25）

夏
- 万灯会（東光寺・送り火8／15）

秋
- 東光寺紅葉特別拝観（11月下旬）
- 例大祭（松陰神社10／27）

冬
- 勧学祭（松陰神社1月上旬）
- 東光寺除夜の鐘（12／31）

四代藩主吉広公が萩藩鋳物師郡司家に命じて造らせた由緒ある鐘をつくチャンス！

ガイドのご案内

松陰神社内ガイド
期間／3月21日頃～11月末まで（土・日・祝）
料金／無料

周遊ガイド
時間／ご希望の時間に合わせます
料金／１ヶ所→2,000円
　　２ヶ所以上→3,000円
申込／要予約（7日前まで）
NPO萩観光ガイド協会 0838-25-3527

（一社）萩市観光協会
受付時間／9：00～17：00　料金／２～４名様 5,000円～
申込TEL／0838-25-1750　要事前予約
詳しくは観光協会HPでご確認ください。

R7.3（2025）現在

編集 発行　維新の里づくり協議会（H25当時、現在解散）
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成25年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産を活かした地域活性化事業）
文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

萩まちあるきマップ

旧松本村地区 維新の里 史跡案内図 ～松陰先生のふるさと～

旧松本村地区は、萩城下町の東郊にあり、吉田松陰誕生地、墓所、松下村塾、松陰神社、東光寺をはじめ多くの松陰門下生や志士たちの旧宅など維新ゆかりの史跡が数多く点在する明治維新胎動の地です。このマップを片手に、幕末の志士たちが歩いた道を、あなたも歩いてみませんか。

このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館 おたからWEBサイトでチェック!!
www.city.hagi.lg.jp/site/machihaku/

HagiMachijyuHakubutsukan 萩まちじゅう博物館

維新の里（旧松本村）史跡案内図

～松陰先生のふるさと～

松陰先生のふるさと、旧松本村

吉田松陰先生は天保元年（1830）8月4日、松本村に萩藩士杉百合之助の次男として生まれました。後に松下村塾を創始する叔父玉木文之進から厳しい教育を受け、10歳で藩校明倫館の兵学師範見習い、19歳で独立の兵学師範となり、この地で過ごしました。

松本村の名を冠した「松下村塾」

安政元年（1854）、江戸への遊学中、下田での海外密航を企てた罪で囚われの身となった松陰先生は、萩に戻り、安政4年（1857）11月、実家杉家のそばに8畳の塾舎を得て、松下村塾を継ぎました。松陰先生は、「学は人たる所以を学ぶなり。塾係くるに村名を以てす。」と『松下村塾記』に記し、村名を冠した塾名に誇りと責任を感じ、志ある人材を育てようとしました。

おすすめトレイル

3 至誠館・松陰歴史館 ▶ 4 松下村塾 ▶ 5 杉家旧宅 ▶ 6 松陰神社 ▶ 16 玉木文之進旧宅 ▶ 17 吉田松陰誕生地

キーワードは 草莽崛起！

松陰先生は、身分は関係なく志のある者が時代を変革する力になる。在野の有志が立ち上がらねば日本の現状はかえられない、という「草莽崛起」論を提唱しました。

幕末の志士たちが育った維新胎動の地・旧松本村を歩く

おすすめトレイル

3 至誠館・松陰歴史館 ▶ 4 松下村塾 ▶ 6 松陰神社 ▶ 8 吉田稔麿誕生地 ▶ 10 伊藤博文旧宅・別邸 ▶ 16 玉木文之進旧宅 ▶ 17 19 吉田松陰誕生地 ▶ 20 東光寺（総門） ▶ 6 松陰神社

萩まぁーるバス（東回り）
石州街道

楫取素彦

寿

文

松陰先生の妹たちと義弟 楫取素彦（小田村伊之助）

楫取素彦（小田村伊之助）は、松陰先生の2人の妹と結婚した義理の弟にあたります。嘉永3年（1850）大番役として江戸に赴いた翌年、遊学に出てきた松陰先生と知り合い、嘉永6年に松陰先生の妹 寿と結婚しました。松下村塾の後継者として期待されていた素彦は松陰先生の没後、塾生の指導にあたりました。その一方で十三代萩藩主毛利敬親の側近に登用され、藩内では木戸孝允（桂小五郎）や宍戸璣、藩外では坂本龍馬や西郷隆盛らと協力し、倒幕に活躍しました。さらに明治維新後は、群馬県の初代県令として産業や教育の振興に顕著な功績を残し、名県令と称えられました。烈婦（信念を貫く女性）として令名を馳せた妻 寿が明治14年に病死すると、素彦は久坂玄瑞と死別したもう一人の妹 文（後に改名して美和子）と再婚し、その支えのもと、貴族院議員や皇女貞宮の養育主任などをつとめました。明治維新の隠れたキーパーソンである素彦を支えた松陰先生の妹たちにも、松陰先生の志は引き継がれていたのかもしれません。